

平成25年度東部地区環境教育研究協議会実施報告

1 期 日 平成25年8月9日（金）

2 会 場 幸手市保健福祉総合センター（ウェルス幸手）

3 目 的

平成24年10月1日に完全施行された「環境教育等促進法」では、学校教育における環境教育の充実として、①教育活動における環境配慮の努力義務、②学校教育における環境教育の一層の推進が求められています。
このことを踏まえ、持続可能な社会を構築するため、各校の取組の内容とその成果及び課題を発表し、共有するとともに、環境教育を充実させる取組について研究協議を行い、各校、各市町における環境教育の改善及び充実を図ります。

4 内 容

(1) 全体会

- ①情報提供（埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課）
- ②実践発表（宮代町立須賀小学校）
- ③指導講評及び情報提供
（埼玉県立総合教育センター江南支所）



義務教育指導課による情報提供



宮代町立須賀小学校の実践発表



総合教育センターによる指導講評

(2) 分科会

◆第1分科会：小学校部会 ◆第2分科会：中学校部会

- ①レポートをもとに各校の実践発表
- ②グループ別研究協議

【研究協議題】

「環境教育等促進法の趣旨を踏まえ、持続可能な社会を構築しようとする児童生徒の育成を目指した、本校の環境教育の取組の現状と課題について」

- ③グループ別研究協議内容発表
- ④全体研究協議
- ⑤指導講評（埼玉県立総合教育センター江南支所）

5 参加者

| | 出席者数 |
|---------|------|
| 小学校 | 18 |
| 中学校 | 15 |
| 市町教育委員会 | 4 |
| 合計 | 37 |

※各市町より小学校1校、中学校1校が参加し、参加校は毎年代わっています。

【第1分科会：小学校部会 研究協議の様子】



【第2分科会：中学校部会 研究協議の様子】



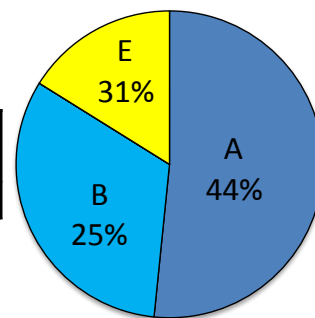
6 指導者から

- ・学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校に共通する新しい概念として「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development : ESD）」が明確に位置づけられた。
- ・「持続可能な開発のための教育」（ESD）の視点に立った教育とは、児童生徒一人一人が、持続可能な社会づくりに関わる課題をとおして、多面的、総合的に探究していく学習活動である。
- ・環境教育はESDの中核的な取組である。
- ・新たな取組を取り入れていくことよりも、まず現在行っている教育活動を環境教育の視点から見つめ直し、継続、充実させていくことが大事である。
- ・その上で、環境教育主任は環境教育のグランドデザインを整えていくとよい。
- ・「Think Globally Act Locally」＝「現代社会の課題を自らの課題ととらえ、身近なところから取り組むことにより、課題の解決を図っていこう。」
- ・小学校は体験すること、自然にふれあうことを大切に、中学校では、知識もしっかり学び、その理解のもと、次の活動へ取り組みたい。
- ・本協議会で学んだ内容を各校や各市町の環境教育推進に向けて生かしてほしい。

7 参会者の感想から

【アンケート：本研究協議会は参考になりましたか】

| A:とても参考になった | B:参考になった | C:あまり参考にならなかった | D:参考にならなかった | 未記入 無回答 | 合計 |
|-------------|----------|----------------|-------------|------------|----|
| 16 | 10 | 0 | 0 | 5 | 21 |



【第1分科会：小学校部会（一部抜粋）】

○宮代町立須賀小学校の実践発表について

- ・須賀小の取組は大変勉強になった。キッズISOを中心に、身近なことから活動は我が校でも参考にし、実践していきたい活動だった。
- ・全校一丸となり、体系的に行われていて、見習うべきところが多くあった。
- ・ESDの理念に基づき、子どもたちが身近なところからテーマを見つけ、進んで行動し、体験から学んでいく姿がよく分かった。地球規模の環境問題という難しい印象でとっつきにくい感じがするが、自分たちの家庭生活に密着し、実感が持てるところから考えていくところが大変よいと思った。

○指導者情報提供、指導講評及び分科会での協議について

- ・ESDについて分かりやすく説明いただき大変勉強になった。
- ・他校から学んだ良い取組をESDと関連づけながら本校でも取り組んでいきたい。
- ・身近なことを少し工夫するだけで素晴らしい取組になることが分かった。
- ・地域によって取り組む内容、取り組まなければならない内容を精選することが大切であり、地域や保護者と連携していく必要がある。
- ・他校の環境教育の実践を見たり聞いたりする機会はほとんどないので、とても参考になった。何をすればよいのか、どのようにすればよいのか、どこに向かっていけばよいのか、少し目の前が明るくなってきたように感じる。
- ・持続可能な社会の担い手を育む教育には何が重要であるか、学校教職員全員、さらに地域とも連携して取り組めるようもう一度深めていきたいと思った。
- ・身近な家庭環境内の資源活用に目を向けさせ、エネルギーの節約、エネルギーの効率化、資源の再利用が社会全体において大切だということを考えさせていきたい。
- ・各校とも、地域の協力を得るためにどうしたらよいか課題になっていると感じた。
- ・本日の研修で得たことを活かして、もう一度本校の環境教育計画を見直し、練り上げていこうと思う。

【第2分科会：中学校部会（一部抜粋）】

○宮代町立須賀小学校の実践発表について

- ・須賀小学校のように、教師と児童が一体となり環境教育に力を入れ「今、私たちにできること」を考えていきたい。
- ・児童が主体的に考え活動しており、すばらしいと思った。
- ・子どもたちが考え、体験し、実感することで、より一層の充実が図れることが再確認できた。また、学校と地域（家庭）と連携することの大切さを感じた。
- ・キッズISOプログラムを中学でも実施できないものかと興味を持った。「江戸の日」も同様で、取組をもっと広めたらおもしろいと思った。

○指導者情報提供、指導講評及び分科会での協議について

- ・今後、環境教育の年間計画の見直しなどをしていきたい。
- ・ESDの視点を取り入れた学習指導を展開できるように研修を進めていきたい。
- ・教科との関連性をもっと深めていきたい。
- ・環境教育をより一層推進するためには、中心となる者が、全校に働きかけ、教職員そして生徒の意識を高めることが大切であると痛感した。
- ・漠然とした「環境教育」が明確化されてきたように思える。
- ・指導者が、今やっていることを続けられよと言ってくださり、少し気が楽になった。自分のできることから足元を固めていきたい。
- ・無理に活動を広げるのではなく、今までの活動を大切にしていくことが重要であると思った。その活動の意味を意識させていくことが大切であると思った。
- ・今日の協議会の内容を持ち帰り、今後活かしていきたい。
- ・一番大切なことは、その学習や体験活動を何のために、なぜやるのかを、生徒が理解した上で、取り組むことなのだとよく分かった。
- ・学校全体で取り組むために、環境教育のグランドデザインを作成したり、全体計画をもっと有効に使っていくことが大切だと分かった。
- ・ESDの考え方として、新しいものをやるのではなく、今やっていることを自信を持って継続していくことが大切ということが分かった。職員間の連携を強化し、環境教育についてしっかりと考えていきたい。